

【背景と目指す姿】

- 小山市間々田地区、生井地区は、米麦主体の経営が多く、その多くは、兼業農家や高齢農家であり、新たに水田への露地野菜作付けを行う機運は高くなく、作付けは、あまり普及していない。
- こうした中、当社は、**当該地区で平成29年よりねぎとたまねぎの水田での作付けを開始し、更に作付け拡大を考えている。当該地区の他の農家への良い刺激になるためにも引き続き、土地利用型園芸の産地づくりを進めたい。**
- 販路については、栃木県の加工・業務用露地野菜産地クラスター育成モデル事業により取引を開始している**食品企業への出荷を増やし、新たに販路を広げ、リスク回避を行っていく。**

1 水田における露地野菜販売額

現状(平成29(2017)年度):1,632千円

⇒ 目標(令和2(2020)年度):50,325千円

2 主な取組内容(平成30(2018)～令和2(2020)年度)

項目	具体的方策
農地集積・集約化	<ul style="list-style-type: none"> ・市町、農業振興事務所と連携し、稲作農家への導入に向けた意識啓発を実施 ・2ha程度の園芸団地を形成 ・農地中間管理事業等の活用により農地集積・集約を進めるとともに、集積が進んだ農地は畦畔除去を実施 ・坊主しらずねぎの導入による周年供給
効率化・省力化	<ul style="list-style-type: none"> ・播種から出荷調整までの機械化一貫体系の確立 ・周辺ねぎ生産者からの収穫・出荷作業の受託により、周辺生産者の規模拡大を推進 ・ねぎとたまねぎの組合せによる周年雇用
加工・業務用需要への対応力強化	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の取引企業から求められている出荷量増加への対応 ・県から提供された食品企業の需要情報を活用し、新たな販路(特に運送コストが削減可能な県内外食品企業)を開拓 ・県内外で開催される商談会に出展し、新たな販路を開拓



定植直後のねぎ生産ほ場



収穫前のねぎ生産ほ場



食品企業との商談による販路開拓